

## 第3章 計画の基本的な考え方

### (1) 目指すまちの姿と基本理念

本市では、平成24年（2012年）に前計画である「刈谷市国際化・多文化共生推進計画」を策定し、目指すまちの姿として、5つの場面（地域、教育の場、公共施設・機会、企業・職場、地球規模）ごとに、「将来こうしたい！まちの風景」（ビジョン）を設定し、各施策に取り組んできました。本計画においてもこれまでの施策を引き継ぎ、新たな目指すまちの姿と基本理念を次のように定めます。

#### 【目指すまちの姿】

**国籍にかかわらず全ての人が尊重され、  
交流や協働がひろがるまち刈谷**

#### 【基本理念】

##### <包摂・支援>

全ての人が尊重され、生活に必要なサービスや支援が公平に提供されること

外国人市民も、地方自治法上の「住民」であり、地方公共団体の役務の提供を等しく受ける権利を有します。また、地域の外国人と日本人がお互いに理解を深め、尊重し合いながら暮らしていくためには、自立できる生活基盤が必要です。

##### <交流・協働>

様々な主体の特性がいかされ、相互交流と協働の取組が行われていること

平成21年（2009年）施行の「刈谷市共存・協働のまちづくり推進条例」にあるように、誰もが暮らしやすいまちにするには、「市民一人ひとりがまちの課題を自分ごととし、自発的に取り組むこと」、「市民の様々な知恵や力をいかし合い、市民同士がつながり合いやすい環境をつくることを進めていくこと」及び「まちづくりを担う様々な組織や人々が、各々の力を出し合い、地域社会における役割を担い、相互に協力し、連携していくこと」が必要です。

## (2)計画推進にあたり重視する視点

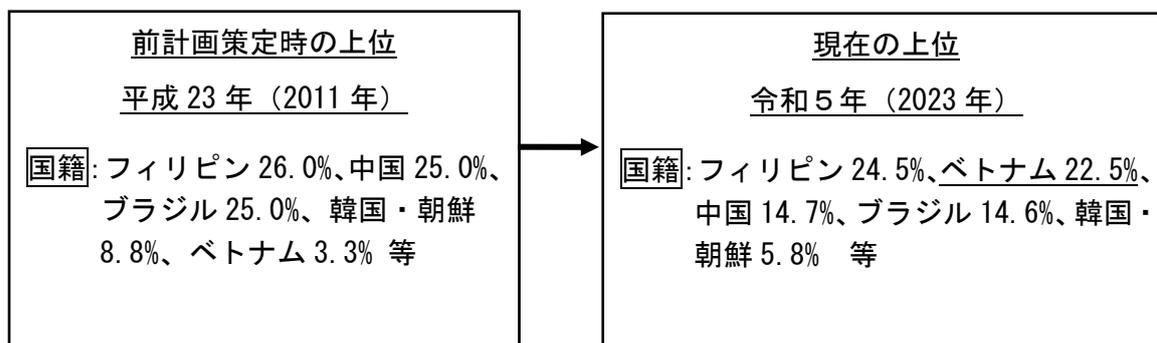
### ① 外国人市民の増加、多様化、永住化への対応

#### 【外国人市民の増加】

- ◇ 前計画策定後 12 年間（平成 23 年～令和 5 年）で 1.44 倍に増えており、国の政策的・制度的な外国人材受入拡大の方針等により、今後さらに外国人市民が増えることが見込まれます。

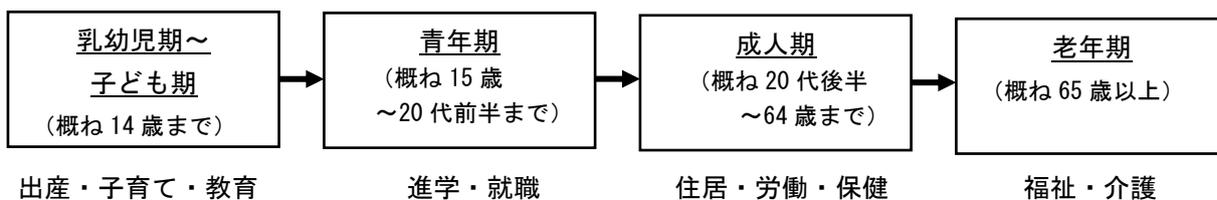
#### 【外国人市民の多様化】

- ◇ 前計画策定後、以下のとおり外国人市民の構成は変化してきています。今後、通訳・翻訳する言語のニーズ変化への対応、文化・習慣及び在留資格の多様化への理解や配慮が求められます。



#### 【外国人市民の永住化】

- ◇ 外国人市民への意識調査では、日本での永住意向が 82.3%に達し、長期間、日本で生活し続けようとする外国人市民が増えています。そうした中で、日本人と変わらないライフサイクルで暮らす外国人市民が増えることによる外国人の子どもの増加、永住者の高齢化などが見込まれます。そのため、各ライフステージを意識した切れ目のない支援が求められます。



## ② 持続可能な開発目標 SDGs 達成への貢献

本計画は「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための「SDGs」の達成に向けて取り組む視点を盛り込みます。

本計画は、17 のゴールの内、下記の 8 ゴールの達成にむけた取組であるとともに、他のゴール・側面と合わせて統合的な課題解決を図る全市的な取組の一環となります。

### ● 本計画に関連する SDGs の目標 ●



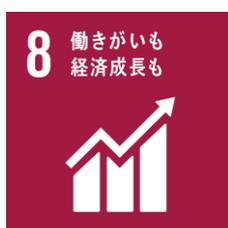
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



各国内及び各国間の不平等を是正する



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

### (3)基本目標と施策の体系

目指すまちの姿と基本理念を実現するために、次の4つの基本目標を柱として、多文化共生推進に向けた施策に取り組みます。

＜包摂・支援＞ 全ての人々が尊重され、生活に必要なサービスや支援が公平に提供されること

#### 基本目標1 コミュニケーション支援

- ◇ 言葉の壁や文化・習慣の違いを乗り越えて、国籍にかかわらず誰もが安心・安全に暮らし、ともに活躍できるよう、やさしい日本語での対話を基本としつつ、外国人市民の日本語能力、情報の重要性・緊急性に応じた適切なコミュニケーション（会話、情報伝達）ができるよう日本語能力の向上等の必要な支援を行います。

#### 基本目標2 生活に関わる支援

- ◇ 多様な外国人市民を誰一人取り残さないよう、様々な困りごとに対する相談体制を構築するとともに、外国人市民の永住化に伴うライフステージに応じた情報提供を図ります。また、防災や医療等、命や健康リスクに関わる情報の提供体制を整備します。

＜交流・協働＞ 様々な主体の特性がいかされ、相互交流と協働の取組が行われていること

#### 基本目標3 共生に向けた教育と交流の推進

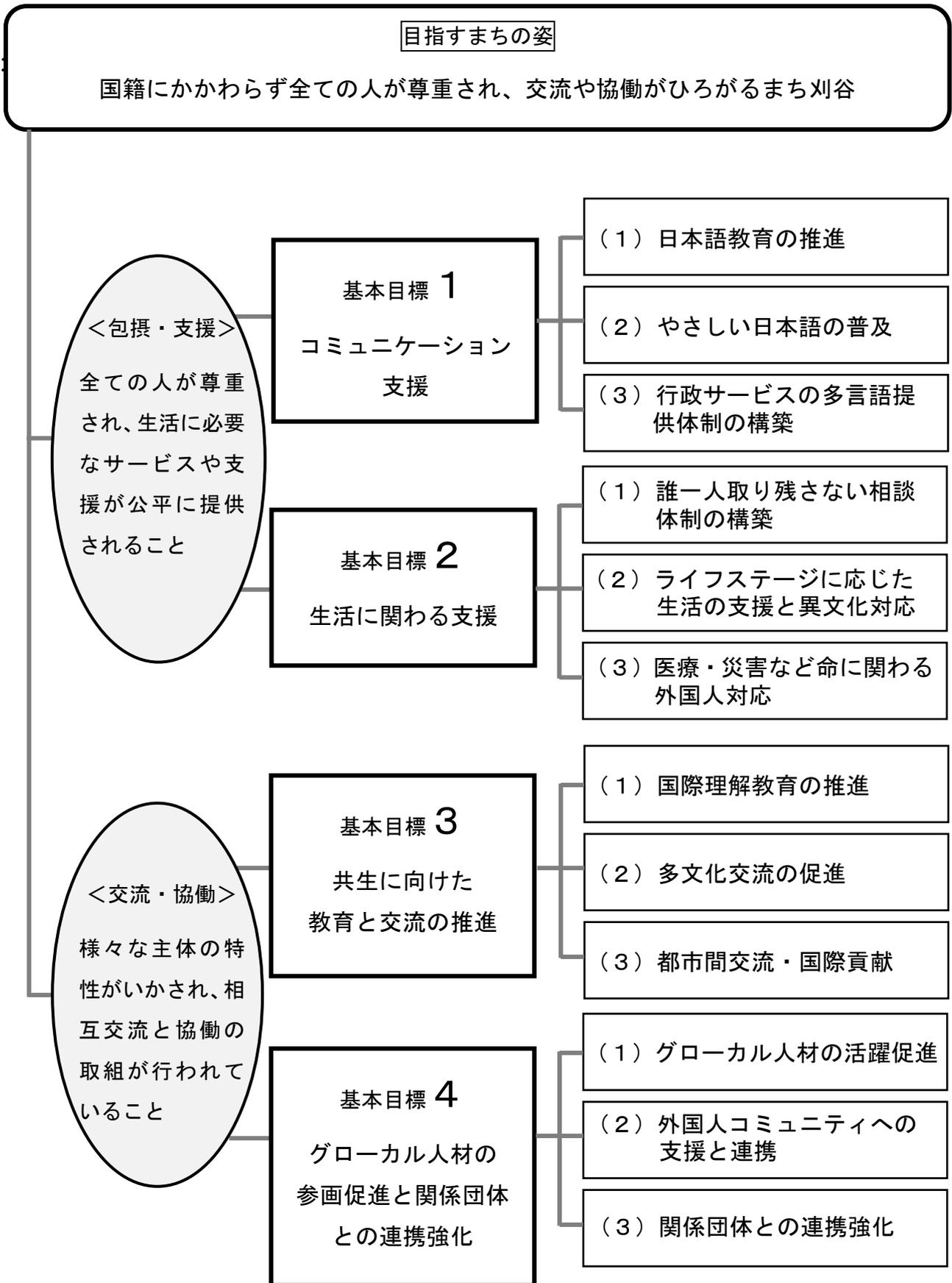
- ◇ 地域に外国人市民がいることが当たり前になってくることを踏まえ、外国人と日本人の相互理解が進んでいないことによるお互いの不安な気持ちを解消するため、地域、学校、公共施設など様々な場で、国際理解教育や多文化交流の機会充実を図ります。

#### 基本目標4 グローカル人材の参画促進と関係団体との連携強化

- ◇ 年齢構成が若く多様な価値観を持つ外国人市民や、海外赴任経験のある企業の社員及び NGO スタッフなどのグローカル人材を重要なリソースパーソン<sup>※9</sup>と位置づけ、地域、学校、公共施設など様々な場における国際化・多文化共生の取組に参画できるような機会の創出や仕組みづくりを行います。また、刈谷市国際交流協会、外国人コミュニティ、企業等と理念を共有し、連携して活動に取り組みます。

※9 リソースパーソン  
会議などの中心人物のこと。

● 施策の体系 ●



## (4)数値目標

### 基本目標1 コミュニケーション支援

指標	当初値 (R4)	目標値 (R15)
日本語で困ったときという設問の選択肢のうち「市役所や学校からの文書を読むとき」／「市役所の窓口で」と回答した外国人市民の割合	37.9%	25.0%
	26.2%	15.0%

### 基本目標2 生活に関わる支援

指標	当初値 (R4)	目標値 (R15)
子育てや教育で困ったことという設問の選択肢のうち「困っていることはない」と回答した外国人市民の割合	47.0%	55.0%
地震などに対して「何らかの備えをしている」と回答した外国人市民の割合	75.0%	80.0%

### 基本目標3 共生に向けた教育と交流の推進

指標	当初値 (R4)	目標値 (R15)
「地域の日本人と既に十分に交流している」と回答した外国人市民の割合	23.7%	35.0%
外国人市民が増えることに対して「不安に思うことはない」と回答した日本人市民の割合	13.5%	25.0%

### 基本目標4 グローカル人材の参画促進と関係団体との連携強化

指標	当初値 (R4)	目標値 (R15)
地域に暮らすコミュニティの一員として役に立ちたいと「とても思う」と回答した外国人市民の割合	23.0%	30.0%